

パレット保育園 長津田

2014 年度 保育所自己評価票

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 I - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成

評価項目 I - 1 - (1)

保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのになっており、全職員が理解し、実践しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのとなっている。	
	<input type="radio"/> 全職員が基本方針を理解している。	
	<input type="radio"/> サービスの実施内容は、保育の基本方針に沿っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・園内に保育理念・保育方針・スタッフの使命を掲示している。 ・年度初めの職員会議や全園研修会時に読み合わせや確認をし、周知徹底している。 		

評価項目 I - 1 - (2)

保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしている。	
	<input type="radio"/> 保育の基本方針や家庭の状況、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成している。	
	<input type="radio"/> 保育課程の作成にあたっては、全職員が関わっている。	
	<input type="radio"/> 保育課程は入園時や年度当初には必ず保護者に説明している。また、改定した時には随時保護者に説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの職員会議に全職員で読み合わせ、地域独自のものを考慮し作成している。 ・次年度には前年度の見直しをしている。 ・保育過程に基づいた指導計画を、入園・進級時に保護者に説明し共通理解している。 		

評価項目 I - 1 - (3)

日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育計画（保育課程）に基づき、年齢ごとに指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしている。	
	<input type="radio"/> 態度・表情などから子どもの意思を汲み取り、言語化できる子どもからは意見・要望を聞いている。	
	<input type="radio"/> 子どもの意見・意思を指導計画の見直しに活かし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっており、計画には柔軟性を持たせている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を考慮し、計画を柔軟に見直している。 ・言葉で表現できない子どもの場合は、気持ちを代弁しながら意思を確認したり安心感が持てるようにしている。 		

評価分類 I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価項目 I - 2 - (1)

入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に面接している。	
	<input type="radio"/> 子どもの様子をよく観察している。	
	<input type="radio"/> 入園までの生育歴や家庭での状況を把握している。	
	<input type="radio"/> 面接時に把握された記録は、日々の保育に活かされている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園時に個人面接を実施し、細かく記入されたものを担当が把握し、更に重要な事項は全職員で共有している。 ・個人カルテ・健康カルテなど一式を提出していただき、個々の家庭環境などを把握している。 		

評価項目 I - 2 - (2)

新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行っている。	
	<input type="radio"/> 0、1歳の新入園児に対しては個別に主担当保育者が決まっている。	
	<input type="radio"/> 子どもが心理的拠り所とする物の持ち込みができる。	
	<input type="radio"/> 子どもの生活の連続性の視点から、保護者へのていねいな連絡をノートでしている。	
	<input type="radio"/> 在園児への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・慣らし保育は、個々の状況に応じて1週間程度を予定している。 ・全クラス、情報交換のために連絡ノートを使用している。子どもの一日の様子を丁寧に記入し、保護者とのコミュニケーションを図っている。 		

評価項目 I - 2 - (3)

子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、複数の職員が参画して作成している。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、保護者の意向も反映している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任が中心となり年齢ごとに年間計画・月間指導計画・週案を作成している。 ・年に1回は振り返り・反省を元に見直しを行っている。 ・指導計画は面談などにより、保護者の意向も伺いながら反映している。 		

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保

評価項目 I - 3 - (1)

子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育園の屋内・外とも、常に清潔に保たれている。	
	<input type="radio"/> 通風・換気等が確保され、気になる臭いを取り除く工夫をしている。	
	<input type="radio"/> 施設内の温・湿度の管理が日々適切に行われている。	
	<input type="radio"/> 陽光を十分取り入れるよう配慮している。	
<input type="radio"/> 音楽や保育者の声などが騒音にならないよう、配慮している。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋に温・湿度計を設置し毎日同時刻に確認している。 ・職員は当番制で清掃を行い清潔を保つようにし、チェック表に基づき確認している。 ・施設は大変日当たりが良く、換気も十分に行っている。 		

評価項目 I - 3 - (2)

沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 沐浴設備がある（ただし、0歳児保育実施施設）	
	<input type="radio"/> 温水シャワーの設備がある。	
<input type="radio"/> 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃が十分に行われている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・清掃はチェックシートに基づき行い、適切に管理・清掃され清潔に保っている。 		

評価項目 I - 3 - (3)

子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 低年齢児には、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫している。	
	<input type="radio"/> 食べる・寝るなどの機能別の空間を確保している。	
<input type="radio"/> 屋内に異年齢児間の交流の場がある。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・食事と午睡は同じ部屋で行っているが、食後はテーブルや椅子を片付けて専用のごぎを敷き午睡の空間を作っている。 ・なかよし会を設け、歌を歌ったり体操をしたりする時間を作ることにより異年齢交流をしている。 ・朝・夕は異年齢児が触れ合う自由保育の時間を設けている。 ・合同保育時は絵本や構成あそびなどコーナー遊びが出来るように工夫し、好きな遊びがじっくりできるようにしている。 		

評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

評価項目 I - 4 - (1)

子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 3歳未満児については、個別指導計画を作成している。	
	○ 幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成している。	
	○ 個別の目標・計画は定期的（月1回を目安）に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っている。	
○ 個別指導計画の作成・見直しにおいて、重要部分を保護者に説明し、同意を得ている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児は一人ひとりの状況に応じた個人別の月案を作成し、子どもの発達に応じて見直しをしている。 ・必要に応じて個々に保護者に説明し、十分理解していただく努力をしている。 		

評価項目 I - 4 - (2)

子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	○ 子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	○ 入園後の子どもの成長発達記録がある。	
	○ 子どもの記録内容は全職員が共有できるしくみになっている。	
○ 重要な申し送り事項が記録され、進級時等に伝達されている。		
B	保育所児童保育要録を小学校に送付している。その上でAの2つ以上に該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・発達成長記録は、個人別記録表『こんなに大きくなりました』に記録している。達成された項目に丸をつけ、特記事項には成長の様子を記録している。また、身体測定結果・健康診断結果・予防接種など健康の記録に「ついては児童健康台帳に記録している。 ・小学校へ要録を送付し、学校職員と細かく伝達する場を設けている。また、気になる子どもの場合は小学校で出むき直接話すこともある。 ・進級時の申し送りでは記録した書類を元に全職員で内容を共有している。 ・日々の申し送りでも子どもの様子や変化など細かく伝え、職員間で把握している。 		

評価分類 I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価項目 I - 5 - (1)

特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	○ 個別のケースについて会議で話し合わせ、記録がある。	
	○ 最新の情報を職員間で学習し、保育に活かしている。	
	○ 共有する情報は記録され、いつでも確認できるようファイリングされている。	
B	特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢がある。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもについては週ミーティングや園内会議で情報を共有し対応を話し合い、日々の様子についても毎日の昼礼で情報交換を行っている。 ・職員は外部の専門機関による研修に参加し、その内容を研修報告書や園内会議などで発表し情報共有している。 		

評価項目 I-5-(2)

障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> バリアフリーなど、障害児保育のための環境整備に配慮している。	
	<input type="radio"/> 保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	<input type="radio"/> 障害の特性を考慮した個別指導計画が立てられている。	
	<input type="radio"/> 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・北部療育センターや保健福祉センターと連携し、情報交換をしている。 ・障害児という診断は出ていないが集団生活に配慮が必要な園児に対しては保護者参観をして子どもの普段の生活を見ていただき専門機関への受診など勧めたり個別に面談し配慮している。 ・以前障害児を受け入れていた時は、個別指導計画を作成し担任をはじめ職員全員で関わっていた。その経験を生かす気になる子がいる場合は職員全員で対応の仕方などを話し合いクラス全体での配慮など工夫している。 		

評価項目 I-5-(3)

虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 虐待の定義が全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 虐待が明白になった場合に、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えている。	
	<input type="radio"/> 疑わしい場合や見守りが必要な場合は関係機関との連携をとっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・園長は以前行政の「虐待防止対策連絡協議会」のメンバーとして地域の虐待防止に深く関わっていたので、その事例や対策など職員には生きた体験として伝えている。 ・毎日園児の受け入れ時に視診・触診を丁寧に行っている。 ・家庭での怪我などについても園長に報告し、保護者との会話の中で尋ね早期発見に努めている。 ・また家庭で怪我が多い場合は、保護者が見きれていない場合などが考えられるのでその都度声をかけ保護者支援もしている。 		

評価項目 I-5-(4)

アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	<input type="radio"/> 全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	<input type="radio"/> 食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、代替食を提供している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児の誤食事故などが報道される度に園内でも事例報告をし、当園での対応を再確認し安心して食事が出来るよう体制を整えている。 ・医師からの「アレルギー疾患生活管理指導表」と保護者からの「アレルギー除去食申請書」の提出を受けて除去している。 ・除去の内容については毎月の献立に基づき保護者と施設長、担任、調理スタッフが話し合い確認している。 ・食材表のチェックは事務所内に掲示し、給食スタッフ、施設長がチェックし担任も確認している。 ・アレルギー除去食については職員間で周知徹底し、給食前に確認している。 ・給食はトレーの色を分けてプレートをつけさらにラップに食べ物の名前を書き担当が確認しながら配膳している。 ・代替食は冷蔵庫内に別区間を作り保管している。 ・除去をする際は検査後、「アレルギー除去食解除書」を提出して解除としている。 ・配膳の際には、給食スタッフ、保育士ともに声を掛け合って確認している。 ・アレルギー児の除去のある日は、他児とテーブルを分けて食事を取るようにしている。 		

評価項目 I-5-(5)

外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	○ 文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
	○ 意思疎通が困難な場合の対応策がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・当園には外国籍の保護者の子ども、帰国子女は在籍していない。 ・今後このような子どもが入園した際には柔軟な対応が出来る準備が出来る。 		

評価分類 I-6 苦情解決体制

評価項目 I-6-(1)

保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 第三者委員に、直接苦情を申し立てることができる。	
	○ 保護者に対して、意見箱・懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	
	○ 自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者に対して具体的な配慮がなされている。	
	○ 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介している。	
B	要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に保護者に説明されている。	
C	要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・園内に「ご意見、ご要望の解決のための仕組みについて」というフローチャートが掲示され、要望、苦情は直接第三者委員へ申し出ができる。 ・苦情申し出窓口として受付責任者の名前がある。 ・第三者委員の2名の名前、住所、電話番号も掲示されており容易に申し出が出来る仕組みになっている。 ・園の苦情受付責任者、苦情解決責任者の名前は「パレット保育園のしおり」の重要事項説明に列記されている。 ・行事の際（夏まつり、運動会、懇談会）事後には必ずアンケートをとり、保護者の意見、要望や苦情が申し出できる機会がある。 ・懇談会・個人面談・各行事後のアンケートなどで保護者の要望・意見などを聞きその後の行事に反映している。 ・法人本部（本社）に総合事務センター（お客様相談センター）がありそちらでも対応している。 ・「運営委員会」があり乳児、幼児の保護者代表が1名づつ委員となり施設長、設置主体代表、福祉有識者が参加して年1回2月頃開かれていてその席上、意見、要望が出されている。 		

評価項目 I-6-(2)

要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 第三者委員を交えて対応する仕組みができています。	
	○ 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がつけられている。	
	○ 要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に理解・周知されている。	
	○ 過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理し、解決に活かしている。	
B	要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備されている。	
C	マニュアル等文書化されたものが整備されておらず取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・当園には2名の第三者委員がおり、名前も公開され、苦情・要望を出しやすい仕組みになっている。 ・保護者からの意見・要望は園からの回答と共に掲示し公表している。 ・要望・苦情はまた「意見・要望の受け付け書」に記載され必要に応じ検討している。 ・園単独で解決困難な場合は法人の「お客様センター」と「担当役人」が対応する仕組みがある。 ・外部機関として「横浜市福祉調整委員会」の案内掲示がある。 		

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－1 保育内容

[遊び]

評価項目Ⅱ－1－(1)

子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができてきているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもがおもちゃや教材等を自分で取り出して遊べるようになっている。	
	<input type="radio"/> 年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や発達に対応したおもちゃを取り出しやすい位置に収納している。 ・年度変わりにコーナー保育を職員会議で検討して見直し、子どもが落ち着いて遊べるよう収納具の位置を変えている。ままごとコーナーや絵本コーナーなど区切って子どもが好きな遊びに集中できるように配慮している。 ・登園から朝の会までと帰りの会から降園までは自由遊びの時間となっていて、コーナー保育が出来るように収納の位置を変え、それぞれのスペースでゆったり遊べる工夫をしている。 		

評価項目Ⅱ－1－(2)

遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ自由にごっこ遊びをしたり、落ち着いて一人で遊んだりしている。	
	<input type="radio"/> 一斉活動は、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友だち関係やルールを守る等の社会性を重視して、年齢に応じて取り入れている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝・夕は子ども達が自由に遊べるように時間を設けている。 ・一斉保育時、それぞれの月齢に応じた遊びを取り入れている。 ・ルールのある遊びなども年齢に合ったものを取り入れている。 ・パズル、粘土、ひも通し、ボタンはめなど指先を使った遊びを意識して少しずつ取り入れるようにしている。 		

評価項目Ⅱ－1－(3)

動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが散歩等で、日常的に地域の大人や子どもたちと挨拶・会話を交わしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方にご協力いただき、たけのこ掘りやさつまいも掘りを行っている。 ・園庭で野菜の栽培をし、収穫したものを調理して食べるなどの食育を行っている。 ・近隣公園に植える花を種から育て、近隣保育園と一緒に公園に植えている。 ・カブトムシを育て、卵から幼虫、成虫になる過程を観察、大切に育てている。 ・食材を納品している八百屋さんが珍しい食材があると食育用に持ってきてくれることがあり、食育の一環として披露している。(収穫前のゴマの草、サトイモの親芋、掘りたてのレンコンなど) 		

評価項目Ⅱ－１－(4)

子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう配慮している。
	○	子どもが自発的に表現するよう様々な素材を用意するなど、自由に使えるよう配慮されている。
	○	子どもが自由に歌ったり、絵を描いたりしている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの際、粘土やお絵かきなど自分のやりたい活動を自由に出来るようにしている。 ・幼児はみんなで話し合って遊びやルールを決めたり、自分のやりたい遊びを見つけることが出来ている。 ・4歳児は「せんれのんしゅう」、5歳児は「ほっぷ」「すてっぷ」「じゃんぷ」という文字や数字に興味をもてるようにテキストを各自持っていて、自分のペースでやりたい時にやりたいだけやっている。 ・大きな模造紙に絵を描いたり絵の具に触れて感触を楽しんだりして自由に表現できるようにしている。 ・ピアノの音に合わせて身体を動かしたりトミックなども積極的に取り入れている。 		

評価項目Ⅱ－１－(5)

遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	子ども同士のけんか等については、危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助している。
	○	異年齢の子ども同士が関わりを持てるよう配慮している。
	○	職員は、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝、夕の合同保育の時間だけでなく、異年齢が関わるような時間を設けている。(年齢の近いクラスばかりでなく、時には普段あまり関わらない年齢の子ども同士で過ごすこともある。) ・喧嘩などについては怪我のないように職員が必ずついて見守り、未然に防ぐようにしている。 ・異年齢児と手をつないで戸外活動をしたり玩具の貸し借りなど仲立ちをしながら会話や関わりを持って楽しめるようにしている。 		

評価項目Ⅱ－１－(6)

積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	散歩や屋外活動などを積極的に取り入れている。
	○	散歩や屋外活動などを行う際には、紫外線対策やアレルギーへの対処を行っている。
	○	発達段階に応じて、運動能力を高められるような遊びの環境を意識してつくっている。
	○	子どもの既往歴や健康状態に合わせた遊びを工夫している。
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・散歩などは毎日行っている。 ・園庭があるので短時間でも外に出て遊ぶことができる。 ・3歳児以上は体育的カリキュラムに基づき、体力測定を年2回実施している。(運動プログラムも導入し、遊びの中でいろいろ体の使い方を知ったり、運動能力アップにつながる遊びやゲームを取り入れている。) ・紫外線防止のため、垂れつき帽子を使用している。 ・坂道、階段のある所も安全に配慮しながら経験できるようにしている。 		

【生活】

評価項目Ⅱ－１－(7)

食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育士が、子どもの負担になるほどに残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	
	○ 乳児の授乳にあたっては、ほしがる時に、抱っこして声をかけながら与えるようにしている。	
	○ 授乳する時や離乳食を食べさせる時は、子どものペースを尊重している。	
	○ 子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、適切な言葉かけや援助をしている。	
○ 子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に関心を持つよう工夫している。		
B	Aの中でいずれか3つ該当する。対象乳児がない場合は2つ該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。対象乳児がない場合は1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の食事量に配慮しながら、完食の喜びを味わえるような調理方法や配膳方法を工夫している。 ・4・5歳児は配膳の手伝いを行っている。 ・職員は指導食と一緒に食べながら、食材についてや楽しい雰囲気の中で食事ができるように声かけをしている。 ・好き嫌いがある子どもの場合は、励ましたり適切に褒めながら無理のない範囲で少しずつ食べられるように声かけしている。 ・乳児の授乳・離乳食は個々のペースや咀嚼状況を見ながら無理なく進めている。 		

評価項目Ⅱ－１－(8)

食事の場、食材、食器等に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 季節感のある献立や食欲がわくような盛り付けなどの食事作りに配慮している。	
	○ 食事の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
	○ 食材や食器の安全性に配慮している。	
○ 子どもの成長・発達や用途に即した食器を使用している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・食育計画は年間計画として立てている。 ・献立は、行事メニューや物語メニュー、郷土料理メニューなどを取り入れている。 ・子どもの年齢にあった食器・箸・スプーン・フォークを使用している。 ・地元の商店などから地産地消の給食作りをしている。 ・季節の移り変わりに合わせ、旬の食材を献立に取り入れている。 		

評価項目Ⅱ－１－(9)

子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫している。	
	○ 栄養士や調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見る機会を設けている。	
○ 残食を調査記録し、献立・調理の工夫に反映させている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・献立については、2週間後に再度繰り返しメニューを取り入れることで好き嫌いの把握や食材の切り方の工夫・味付けの工夫・盛り付け方の工夫をしている。 ・給食スタッフは子どもたちの喫食状況を見るようにしている。 ・作り手の顔が見えるように、食事以外にも子どもたちと触れ合うようにしている。 ・残食状況は日々記録に残し献立作成に反映させている。 		

評価項目Ⅱ－１－(10)

子どもの食生活について、家庭と連携しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 献立表を作成し、事前に配布している。	
	○ 献立作成のポイントを明記した情報提供を行っている。	
	○ 定期的にレシピを提示し、保護者に保育所で提供する食事に対する関心がもてるようにしている。	
○ 保護者が試食できる機会等を設けて、栄養・味付け・食べ方（噛み方）等、保育所で配慮していることを知らせている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の試食会を行ったり、給食レシピを自由に持ち帰れるよう掲示したり、給食便りにも掲載している。 ・夏まつりで、子どもたちのお気に入りメニューを提供している。 ・毎日の献立を写真にて掲示しているため、保護者が園児とコミュニケーションを取る手段にもなっている。 ・アレルギー児には全ての項目をチェックし、事前に保護者に配布し、早めに確認してもらっている。 ・離乳食は4月に子どもに介助しながら共に食べる日を設けて保護者と話しをする機会を設けている。その中で離乳食調理の方法や子どもに合わせた作り方（やわらかさ・大きさなど）を工夫するようにしている。また、食事に関してのご意見や相談も聞くことができています。 		

評価項目Ⅱ－１－(11)

午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしている。	
	○ 安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。	
	○ 乳幼児突然死症候群に対する対策を行っている	
○ 年長児には適当な時期から午睡を一斉活動としていない。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・0、1歳児は睡眠チェック表を取り入れ、顔面・呼吸・胸部・体温をチェックしている。 ・年長児は就学に向け、秋以降から午睡のない活動をだんだんと取り入れている。ただし、活動や個々の状況によっては、午睡の行える場を設けている。 ・特に乳児の場合、眠りのタイミングに個人差が出るので、眠くなるまで別の部屋で個人別に対応するなど配慮している。 ・室温や採光の調節、音楽など心地よい眠りにつけるよう配慮する。（足音、ドアの開閉なども） 		

評価項目Ⅱ－１－(12)

排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 一人一人の排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重している。	
	○ トイレトレーニングは一人一人の発達状況に応じて個別に対応している。	
	○ 保育所での排泄状況を保護者に伝え連携を密にしている。	
○ おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを、全職員が認識している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差があるので各家庭と連携を取りながら無理のないように進めている。 ・ミーティング時などで、個々のトイレトレーニング状況を確認している。 ・トイレに子どもが好きな絵本の主人公をプリントし貼ったり、リラックスしてトイレに向かえるように工夫している。 ・パンツやズボンの着脱が一人でしやすいようにベンチを用意し、カバーをこまめに取り替えるなどして清潔にしている。 		

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理

[健康管理]

評価項目Ⅱ－２－(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握している。	
	○ 既往症について常に保護者から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。	
	○ 必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりに食後の歯磨き指導・仕上げ磨きを行っている。 ・児童健康台帳に個々の既往症・内科検診・身体測定の結果などを記録している。 ・ミーティングを通して全ての職員が一人ひとりの子どもに対する既往症、アレルギーなどに対して把握できるようにしている。 ・担任から遅番への連絡漏れがないよう個々に引継連絡表に記入し口頭でも伝える。 		

評価項目Ⅱ－２－(2)

健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 一人ひとりの健康診断・歯科健診の記録がある。	
	○ 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、連携を密にしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断は年2回・歯科検診は1回実施している。 ・4歳児は年1回の視聴覚検診を受けている。 ・3歳児以上は年1回尿検査をしている。 ・全園児、プール開始前の時期にぎょうちゅう検査を実施している。 ・入園から卒園(退園)までの成長の記録を「児童健康台帳」に記載している。 ・健診後は速やかに個々へ結果をプリントで配布し、治療が必要な場合には保護者にきちんと伝える時間を設ける。 		

評価項目Ⅱ－２－(3)

感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記され、保護者に周知している。	
	○ 保育中に発症した時は、保護者への連絡をすみやかにし、対応については保護者の事情も考慮している。	
	○ 感染症が発生した時は、速やかに保護者に情報提供している。	
B	感染症等への対応に関するマニュアルがある。	
C	感染症等への対応に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症などによる登園停止など入園説明会・進級説明会で説明し「しおり」にも記載している。 ・保育中に発症した場合は、速やかに保護者で状態を連絡するとともに、保護者の勤務なども考慮し、事務所に隔離して。 ・感染症が発生した場合は、玄関の掲示板上に病名・病状・留意点などを掲示し、情報提供している。 		

[衛生管理]

評価項目Ⅱ－２－(4)

衛生管理が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ マニュアルは、職員参加により定期的（内容により異なるが、最低年1回を目安）に見直しを行っている。	
	○ マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的（採用時に1回、採用後は最低年1回）に研修を実施するなど、具体策を講じている。	
	○ マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれている。	
B	衛生管理に関するマニュアルがある。	
C	衛生管理に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレなどは職員が当番制で清掃を行い、「掃除チェック表」で確認し、漏れのないようにしている。 ・厨房内には「衛生管理マニュアル」があり、清掃も毎日行っている。 ・月間管理表で一般的な管理を行っている。 		

[安全管理]

評価項目Ⅱ－２－(5)

安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 地震等を想定し、備品等の転倒防止など安全対策を講じている。	
	○ マニュアルは、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	
	○ 緊急連絡体制が確立している。	
	○ 通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を実施している。	
	○ 職員が救急救命法を身につけている。	
B	安全管理に関するマニュアルがあり、Aの中で3つ以上該当する。	
C	安全管理に関するマニュアルがない。または、Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回避難訓練を実施、開園時間のいずれで災害などが起きた場合にも迅速に対応できるように職員間で話し合っている。 ・全スタッフが救命救急法を受講し身につけている。 ・夜間や早朝など自宅にいる際の災害時で電話がつかない場合を想定し、職員全員がツイッターで安否確認ができるようにしている。 ・災害時、保護者には「災害用伝言ダイヤル」「緊急掲示板」を使って安否確認ができるようにしている。 ・ロッカーなどの下に転倒防止をしている。 ・マニュアルは事務所の目につく場所にあり、全職員で確認できるようになっている。 		

評価項目Ⅱ－２－(6)

事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立している。	
	○ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録している。	
	○ 職員会議などで事故の報告、再発防止策の検討が行われ改善策が実行されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・園児の怪我などは事故報告書にて記録し、再発防止を園内で考えている。 ・法人で事故報告書を分析、再発防止に役立てている。(系列園の事故事例を知ることで園内でも再発防止を考えたりしている。) ・小さな怪我であっても昼礼や週ミーティングなどで報告をし、今後の対応策を考え情報共有している。 ・近隣の各医療機関の連絡先や受診時間などをまとめた表を作成し、受診の際に迅速に対応できるようにしている。 		

評価項目Ⅱ－２－(7)

外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 不審者等の侵入防止策（出入り口の施錠等）が講じられている。	
	<input type="radio"/> 不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
	<input type="radio"/> 不審者の情報が関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・玄関はセキュリティが出来ていて、保護者であっても名前確認・顔確認後に開錠して入室するようになっている。 ・警備会社への通報システムができています。 ・不審者情報などは行政を通して連絡が入るようになっている。 ・避難訓練（月1回）の中でも不審者訓練を定期的に行っている。 		

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重

評価項目Ⅱ－３－(1)

保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	<input type="radio"/> せかしたり強制したりせず、おだやかに分かりやすい言葉で話している。	
	<input type="radio"/> 子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	
B	子ども的人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育を行ってほならないことを、全職員が認識している。	
	Aの中でいずれか2つ該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・否定語を使わないように職員間で話しあったり、園内研修などで自身の言葉使いを振り返ったりしている。 ・子どもの目線で話しをするように心がけている。 ・園内研修で人権についての研修をしている。 ・子どもの名前を呼び捨てにしない事など全職員で共有しフルネームで名前を呼ぶ機会を意図的に設けることしている。 ・声を張り上げるような場面を作らない。 		

評価項目Ⅱ－３－(2)

必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 友だちや保育士の視線を意識せず過ごせる場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所がある。	
B	必要に応じて、プライバシーを守れる場所を用意することができる。	
	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・仕切りを使うことでプライバシーを確保したり、好きな遊びや一人になれるコーナーを設置、気持ちが高ぶってしまって興奮している時などは、別の場所で落ち着けるようにしている。 ・喧嘩などの後、子ども一人ひとりと話しをする時は、廊下や開いている部屋を使用するなどして、他の子どもたちの前では行わないようにしている。 		

評価項目Ⅱ－3－(3)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについて、保護者に説明し了解を得ている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務については全職員が入社時に法人本部で説明・研修を受け、また誓約書を提出している。 ・個人情報の取り扱いについては、保護者に入園時説明し同意書を得ている。 ・情報の詰まったパソコンは管理者が限定、ファイルは鍵のかかる書庫で保管している。 ・個別書類などをどうしても持ち出す場合は、コピーを取ってそれを持ち出すようにする。その際は持ち出しファイルにその旨を記入し、上長の許可をもらい事後は持ち出した書類を上長に返却する。 		

評価項目Ⅱ－3－(4)

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	<input type="radio"/> 順番、グループ分け、整列など性別にしている。	
	<input type="radio"/> 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・発表会での役決めなどは、子ども達と話しあって決めている。 ・職員同士、性差による役割分担はしない。 ・人権研修を行ない性差についても学んでいる。 ・異性に対する憧れ（例：男児がお母さん役をやる等）に否定はせず肯定的に受け止める。 ・父の日、母の日は『感謝の日』とし父、母で分けることをしない。（母子家庭、父子家庭への配慮） 		

評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携

評価項目Ⅱ－4－(1)

保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に対しては、全体会または懇談会などで説明する機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、園独自のアンケートなどで保育方針が理解されているかどうか把握している。	
	<input type="radio"/> 日常保育の中で、園だよりや連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・「しおり」を使って進級説明会や入園説明会で説明している。 ・見学希望者にも「見学者用にしおり」を配布し説明している。 ・日常の保護者対応においても必要に応じて伝達している。 		

評価項目Ⅱ－４－(2)

個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの送迎時に、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮している。	
	○ 連絡帳やメールなどできめ細かに情報交換を実施している。	
	○ 保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の様子など、保育活動内容に記入し掲示をしている。 ・担任はお迎え時に、その日の子どもの様子を保護者に伝達している。担任が不在の場合も、他の職員が伝達できるように申し送りができています。 ・個人面談前には事前に相談したい内容などを記入するアンケートを配布し聞き取りをしている。 		

評価項目Ⅱ－４－(3)

保護者の相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 相談内容などを人に聞かれないで相談できるよう、配慮している。	
	○ 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制になっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談を受ける時は、事務所にて個別に相談できるように配慮している。 ・面談内容が記録できるように面談シートを利用している。 		

評価項目Ⅱ－４－(4)

保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 「園だより」などを定期的に発行している。	
	○ 園内に、その日の保育の様子を知らせる情報を掲示している。	
	○ クラスごとの保護者懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日クラス全体の様子などを、保育活動内容用紙に記載し掲示している。 ・月1回、園だより・クラスだより・給食だよりなどでクラスの様子を知らせ共有している。 ・日々の様子や行事の様子などは写真を撮りネット上にアップし保護者の方が閲覧・購入できるようになっている。 ・年長児のお泊まり保育などは保護者が様子を見ることができないのでビデオ撮影をし後日上映会を行うなどして様子が伝えられる機会を設けている。 		

評価項目Ⅱ－４－(5)

保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 年間行事予定であらかじめ日時を知らせ、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすくしている。	
	<input type="radio"/> 保育参観または保育参加を積極的に受け入れている。	
	<input type="radio"/> 保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へのフォローを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会・進級説明会で行事の日程などを知らせている。 ・保育参観などはそれぞれ複数日を設け、保護者が日程調整しやすいように工夫している。また参加できなかったご家庭にはその日の様子を伝えている。 		

評価項目Ⅱ－４－(6)

保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者が自主的な活動ができるように場所等の提供をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者の活動に要請があれば職員も参加をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者組織とは常にコミュニケーションをとっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会は年1回開催し、意見交換をしている。 ・卒園間近で保護者が集まって話し合い（懇談会後に時間を設けている）や催しの練習などする際には園を貸している。その際に要望があれば職員も準備などにも参加し一緒に盛り上げてる。 ・園にある備品、教材なども要望があれば使っていただけるようコミュニケーションをとっている。 		

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価項目Ⅲ－１－(1)

地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するための具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> 地域住民に対する相談事業を通じて把握している。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて関係機関や他施設との検討会・研究会を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援のおまつりに、近隣保育園とともに参加している。 ・園見学にいらした近隣の方とは個々で話しを聞いたり相談が聞ける。 ・近隣の幼・保・小の職員で研修会を開いたりして地域の子育てについての話しができています。 		

評価項目Ⅲ－１－(2)

地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域の子育て支援ニーズについて、定期的（年に1回程度）に職員間で話し合われている。	
	<input type="radio"/> 地域での子育てを支援するためのサービス（一時保育、交流保育、園庭開放等）を提供している。	
	<input type="radio"/> 地域住民に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園希望者に見学を案内する際に、地域の方の支援ニーズを伺うことができる。駅からとても近く、また保育時間が長いこともあり、当園のニーズは高い状態にある。 ・外部機関による交通安全指導や食育のための指導（ドールくん）・環境（エコ）指導（イーオくん）を行う際には園外に掲示をし、近隣の方にも気軽に参加いただけるように園を開放している。 		

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能

評価項目Ⅲ－２－(1)

地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 情報提供や育児相談を実施している。	
	<input type="radio"/> 育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所からのお知らせを地域に回覧するなどして、情報提供に努めている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の給食レシピを門の外に掲示し、近隣の住民の方に自由にお持ちいただけるように設置している。 ・育児相談日を備えているが、相談日以外でも柔軟に対応している。 		

評価項目Ⅲ－２－(2)

相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 必要な関係機関・地域の団体等をリスト化する等により情報を職員が共有している。	
	<input type="radio"/> 関係機関との連携の担当者が決められている。	
	<input type="radio"/> 関係機関・団体等との日常的な連携ができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の療育センターや保健センターなどの関係機関と連携を取っている。担当は主に園長で、具体的な相談は担当保育士が行っている。 		

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価項目Ⅳ－１－(1)

保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の行事に地域住民を招待している。	
	<input type="radio"/> 自治会・町内会、ボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、地域の団体、機関と定期的（年1回以上）、計画的に交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 小中高等学校など、学校教育との連携を積極的に図っている。	
	<input type="radio"/> 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつりなど行事を行う際は駅や近隣にポスターを貼り地域の方に知らせている。また、近隣の方を招待している。 ・職業体験（学生）などを受け入れている。 ・近隣の保育園やボランティアの方と一緒に町内の公園に花を植える花苗贈呈式に参加。（種から事前に園で育てて持って行き植える。） ・小学校探検の行き、交流している。 ・園で飼育していたカブトムシがたくさん卵を産み幼虫になったので園外に掲示し、欲しい申し出があれば差し上げている。 		

評価項目Ⅳ－１－(2)

子どもと地域との日常的な交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。	
	<input type="radio"/> 日常的に地域の人達と接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 日常的に他の園・学校・福祉施設等との交流を図っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のケアプラザに行き敬老会に参加、お年寄りとの交流をしている。 ・近隣の公立保育園と交流し園庭で遊んだり、近隣公園で行われるミニ演奏会を一緒に観賞している。 ・地域の商店の方が旬の食材を食育用に下さるので活用したり、地域の畑などで芋ほり・たけのこ掘り等している。 ・地域の子育て支援行事「みどりっこまつり」に参加し、地域の子育て支援に協力をしている。 		

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価項目Ⅳ－２－(1)

将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している。	
	<input type="radio"/> 外部の情報提供媒体に対して保育所の情報を提供している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・しおりやホームページで情報を提供している。 ・見学希望者には「見学のしおり」を配布し、その中に細かく記載されている。 		

評価項目Ⅳ－２－(2)

利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問い合わせに対しては、常時対応できるようになっている。
	○	利用希望者に見学ができることを案内している。
B	保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応している。	A
C	上記のいずれにも該当しない。	
・入園希望者からの問い合わせに随時対応し、面談の案内をしている。見学者には園内の案内の園の方針やサービス内容について説明している。 ・法人本部が管理しているホームページがあり、具体的な内容については園長が更新している。 ・法人本部にも保育園専用のフリーダイヤルを設け、問い合わせなどの対応をしている。		

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ

評価項目Ⅳ－３－(1)

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者に基本的考え方・方針が理解されるよう説明している。
	○	受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。
B	ボランティアの感想や意見を園運営に反映させている。	A
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づきボランティアに対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。 ・受け入れ時にはオリエンテーションを行い、園長が園の方針などを説明している。 ・ボランティアは保育園の目指す高校生・大学生や中学生の職業体験の場として受け入れをし好評だった。		

評価項目Ⅳ－３－(2)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者に基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。
	○	受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。
	○	実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。
B	実習生と職員との意見交換の機会を設けている。	A
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。 ・実習の受け入れなど、事前にオリエンテーションを行い説明している。 ・本人が希望するクラスで実習できるように配慮している。 ・実習生と職員は、時間を設け意見交換している。		

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成

評価項目 V-1-(1)

保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を逐次行っている。	
	○ 保育所の理念・方針をふまえた保育を実施するよう、人材育成の計画が策定されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部に人材育成課があり、副施設長研修やチーフ研修・新人研修など計画的に取り組んでいる。 ・園の保育方針に沿った人材育成計画があり「スタッフできたかな表」を活用して人材育成を行っている。毎年職員は「スタッフできたかな表」を作成し、資質の向上に向けた自己目標を設定している。「スタッフできたかな表」は、健康管理・守秘義務・時間管理などの一般基本事項、ケアや指導に関する事項に対して実行できたかどうか自己評価を記入するシートで、記入後は年2回園長と面談し、達成度を評価し指導している。 		

評価項目 V-1-(2)

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 内部研修が定期的実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	○ 園外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が積極的に行われている。	
	○ 研修の成果を職場で活かすための工夫がされている。	
B	職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	保育所としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修担当者は園長で、法人主催の研修や市主催の研修から個々の職員に必要性に応じてどれに参加するのかを決定し、研修計画を作成している。 ・研修を受けた職員は研修報告書を作成し、内部研修に発展させている。内部研修を共有し、日々の保育に活かしている。 ・「スタッフできたかな表」を使い自己評価している。 		

評価項目 V-1-(3)

非常勤職員等にも日常の指導を行っているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 業務にあたっては職員と非常勤職員の組み合わせなどの配慮をしている。	
	○ 非常勤職員に対し、職員と同様に資質向上への取り組みを行っている。	
B	非常勤職員にも業務マニュアルが配布されている。	
C	業務マニュアルもなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員も常勤職員（社員）同様の研修を受講している。 ・クラス内だけでなく業務全てにおいて連絡など怠らず行っている。 ・非常勤職員も全体研修・全園研修に参加している。 ・社員だけでなく常勤・非常勤も同様の人材育成を行っている。 		

評価分類V-2 職員の技術の向上

評価項目V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 職員の自己評価や、保育所の自己評価を計画的に行う仕組みを持っている。	
	<input type="radio"/> 工夫・改善した良いサービス事例をもとに、一層のサービス向上を目指した会議・勉強会が開かれている。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体会議・乳児会議・幼児会議・お部屋会議などを開催し、定期的なサービスの見直しや職員のスキルアップに向けての自己評価の機会になっている。 ・法人本部は企画する研修会や外部研修・施設見学などで得たよいサービス事例は職員会議で共有し資質向上につなげている。 ・姉妹園との視察研修（公開保育）を行い、自園でない職員との意見交換などにより、自己の振り返りの機会ができています。 ・内部監査も実施している。 		

評価項目V-2-(2)

保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等一人一人が、自己評価をし、それを文章化できるように計画や記録の書式が定型化されている。	
	<input type="radio"/> 自己評価は、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われている。	
	<input type="radio"/> 保育の自己評価は、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行っている。	
<input type="radio"/> 保育士等一人一人が自己評価を通して、自己の実践の改善やその後の計画作成に反映させている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体会議・乳児会議・幼児会議・お部屋会議でも、その都度振り返り計画作成に反映させている。 		

評価項目V-2-(3)

保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果を互いに報告し合い、話し合っている。	
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。	
	<input type="radio"/> 保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、保育課程に沿って行われている。	
<input type="radio"/> 保育所としての自己評価を公表している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・自己評価シートを使い、会議などで振り返りを行いチェックし課題を見つけ改善策などを意見交換している。 ・5年に一度、第三者評価機関を利用し評価を実施している。 ・第三者評価を行わない年も園の自己評価を行っている。 		

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持

評価項目V-3-(1)

本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されている。	
	<input type="radio"/> 利用者の状況に応じ自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化している。	
	<input type="radio"/> 職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員からの業務改善策は職員会議で話し合い、検討している。 ・園長は日常の話し合いや面談などで職員の要望を聞き、満足度を把握している。 ・職員と園長は年2回面談を実施している。 ・法人本部と職員との面談をする機会がある。 		

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価項目VI-1-(1)

事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化され職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 経営、運営状況等の情報が積極的に公開されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部の情報など「運営要項」などで全園に知らされている。 ・法人により作成された「就業規則」は労働基準局に届出がされ、各園に配備されている。 ・職員採用時には法人本部において初期研修を行っている。その中で保育士としての心構えや個人情報の遵守などを周知している。また、就業規則の服務規律の中で規則や倫理について明文化している。 		

評価項目VI-1-(2)

サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ軽減化・リサイクルへの取り組みとして、広告を折り紙として使用したり牛乳パック・空き箱・ペットボトル・ラップの芯など廃材を教材に活用している。 ・節電にも取り組み不要な電気はこまめに消している。 ・横浜市のエコのゆるキャラ「イーオくん」を呼びエコについての学習をしている。 		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価項目VI-2-(1)

保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 理念・基本方針を明文化したものを掲示または職員に配布している。	
	○ 職員に朝礼・会議等で周知し、理解を促すための説明をしている。	
	○ 理念・基本方針を職員が理解できているか、園長・主任が定期的（採用時1回、採用後は最低年1回）に確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念・保育方針・スタッフの使命などを園内に掲示している。 ・「ハンドブック」にて保育理念・保育方針・スタッフの使命などを記載、全スタッフに配布している。 ・年1回以上、園内会議にて保育理念・保育方針・スタッフの使命などを再確認している。（全園研修会で確認テストを行うこともある。） 		

評価項目VI-2-(2)

重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 重要な意思決定にあたり、園長は保護者と継続的に意見交換をしている。	
	○ 重要な意思決定（変更）について、職員及び保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	
	○ 異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組むしくみがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や進級説明会において保護者との意見交換を行い、またその際重要な決定事項についての説明も必ず行っている。延長料金や与薬に関する説明などを丁寧に行い、保護者の理解を得ている。 ・行事後、保護者アンケートを取り結果を集計し掲示している。また、アンケートの結果を会議などで検討し活かしている。 		

評価項目VI-2-(3)

主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがある。	
	○ 主任が個々の職員の業務状況を把握できるしくみがあり、有効に機能している。	
	○ 主任は個々の職員の能力や経験にあわせた確かな助言や指導を行っている。	
	○ 主任は個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、具体的な配慮を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・幹部候補職員（主任など）は年間を通して研修プログラムがあり、育成してる。 ・週1回副施設長ミーティングを実施し、個々の業務などの確認・指導をしている。 		

評価分類VI－3 効率的な運営

評価項目VI－3－(1)

外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 事業運営に影響のある情報を収集・分析している。	
	<input type="radio"/> 重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている。	
	<input type="radio"/> 運営面での重要な改善課題について、職員に周知し、保育所全体の取り組みとしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の施設長会議で運営状況・行政の動き・周辺情報など共有している。 ・副施設長ミーティングであらかじめ話し合い、職員に周知できる体制ができている。 ・行事内容の変更などについては園の全体会議の議事として取り上げ、職員全体で決定・確認している。 		

評価項目VI－3－(2)

保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たなしくみを常に検討している。	
	<input type="radio"/> 次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成している。	
	<input type="radio"/> 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の施設長会議・法人幹部との施設長面談で事業計画について意見交換をしている。 ・保育サービス内容においては行政と情報交換をし、ニーズに対応できるよう努力をしている。 ・法人本部での人材育成のための研修（施設長研修・園運営研修・副施設長研修・チーフ研修・新人研修など）を計画的に実施している。 		

施設のアピールポイント及び課題

	アピールポイント	課題
I 利用者 本人の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・面談などで保護者の意向を聞いて、個々の成長に合わせた保育を実施している。 ・1クラス6～9名という少人数で保育士の目が届きやすく、きめ細やかな保育ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の保育環境が多様化しているので、できるだけニーズに寄り添えるように対応していきたい。
II サービス の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・『パレット学習タイム』 ◎ねらい・・・『感性を磨き』『知性を育み』『体力を養う』の3つの柱に基づき、各年齢相応の発達段階に合わせ、幼児期に必要な『チカラ』を育んでいきます。 ◎特徴・・・ ①年36回の授業内容を実施。 ②毎回の授業内容に沿って絵本を通してポイントをわかりやすく。 ③保育士と幼児教室の講師と一緒に関わり意欲を引き出す。 ※保育士も事前準備から行うことで、保育士の資質向上につながっている。 ④保護者にはホームページで実施内容を開示し、パレット学習タイム参観も実施している。 ・駅近くに位置し、朝7時から夜8時または9時までの13～14時間保育を行い、保護者の仕事と育児の両立を積極的にサポートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から多岐にわたる要望があった場合は、それぞれに応じられるように検討していきたい。
III 地域支 援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「子育て支援行事「みどりっこまつり」に参加している。 ・地域のケアセンターに行き、お年寄りとの交流をしている。 ・近隣公園の花贈呈式に参加、花壇の整備にも協力している。 ・近隣の保育園・幼稚園・小学校の先生方と交流が持てる研修会があり、積極的に参加している。 ・近隣保育園と年間を通して交流を計画・実施している。 ・門と外側に給食のミニレシピを掲示、定期的に交換することで、近隣の方から喜ばれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩んでいる保護者向けの子育て支援の研修など、検討・実施していきたい。 ・設備や運営体制の面から一時保育や園庭開放は行えないが、相談事業など違った面から地域に貢献していきたい。
IV 開かれ た運営	<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査などを行い、定期的に視察・指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域の視野を広げる
V 人材育 成・援助技 術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・法人において研修体制が整っている。 ・月に1度の園内会議内で内部研修を行い知識の共有などを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人・中堅職員がやりがいを保持していき、満足度を高められるよう、法人と共に検討していきたい。
VI 経営管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・『ハンドブック』の年1回の見直しと毎月配信される『運営要項』により、課題として取り上げられるよう運営している。 ・経営主体のメンバーにより、補助金の管理など全て行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が多様化しているので、全てにおいて長期的な計画もたてていきたい。